

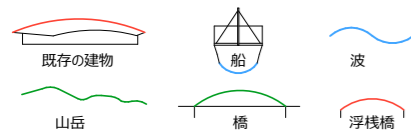


本部港エントランスルーフ



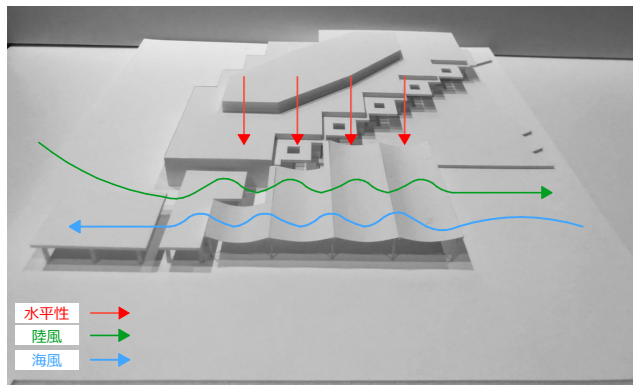
■周辺環境と調和するエントランスルーフの提案

本部港にある施設や自然の有機的な形態のイメージに調和するエントランスルーフを提案します。東シナ海の島々、西に見える山岳、そして周辺施設と一緒に新しい風景をつくり出します。



■既存建物・海・山岳とつながる屋根

既存の建物をリスペクトし、建物をなるべく低くすることで底空間の一体的な利用を考えます。また陸風と海風を自然に受け流す形態とし局所的な強風が起こらないようにします。



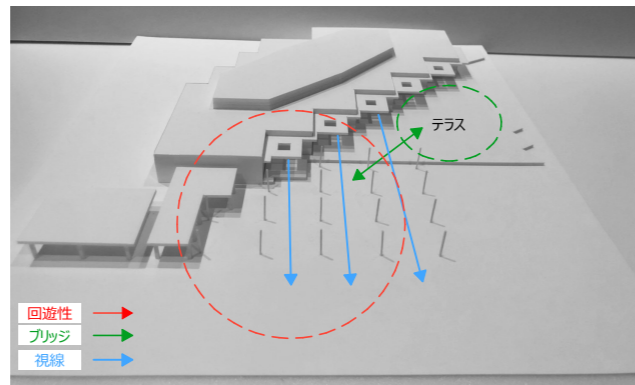
■周辺環境のスケールに溶け込む分節された屋根

大きな1枚の屋根をかけるのではなく、既存建物の底スケールや周辺建物のスケールに合わせて、水平に広がる屋根を4つに分節させることで周辺環境と人々に寄り添った空間を作ります。



■回遊性を生むエントランス広場

既存建物の底空間と柱の配置をなるべく合わせることで窓からの海への視線を遮らないように配慮し、エントランス広場とテラス、内部空間をゆるやかにつなげ回遊性を高めます。



■管理のしやすい平面構成とサイン計画

柱間で作られた空間を一つの単位とし、コンテナと荷捌きスペース、休憩スペースをフレキシブルに分けられるよう、サインをつくることで従業員と旅行客の認識を円滑にします。



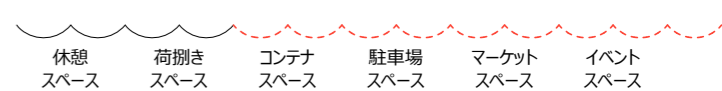
■商業振興を目的としたブランディング

屋根形状をロゴ化し、イベントや特産品と組み合わせることで本部港のブランディングにつなげます。



■将来の展望

国際旅客船拠点形成計画により本部港の施設規模拡大の可能性を考えます。そこで、スペースが必要な場合に屋根を増築することが可能な設計とし、将来的に屋根を反復させることで棧橋や旅客ターミナルとつなげていきます。



■構造計画/点検作業とライフサイクルコスト

コストの削減と工期の短縮を目的に可能な限り部材を単純化し、施工の合理化に努めます。また塩害対策として溶融亜鉛メッキの上、フッ素樹脂ポンフロン塗装とすることでライフサイクルコストとメンテナンスに配慮します。

